

(1)

そほう
組報

かながわ

No. 1 1988. 3. 31

身近なお寺の情報誌



浄土真宗本願寺派

そほう かながわ 創刊号

本願寺派

顕如宗主400回忌・本願寺寺基京都移転400年

記念法要に向けて

□記念事業総合計画スタート

三年後の昭和六十六年は、本願寺第十一代顕如上人の四百回忌にあたり、また上人が寺基を現在の京都に移転してから四百年を迎えます。

この節目を迎えて宗門では、顕如宗主のご遺徳を顕彰すると共に、二十一世紀に向かって更にお念仏の教えを広く社会に伝えていくために、記念事業総合計画を策定しました。

その記念事業の内容は、①慶讃法要の執行。②国内外の伝道活動の活性化。③大谷本願無量寿堂の増築。④本願寺新境内地(約六千五百坪の隣接地)購入とその活用対策の四本柱によりなるもので、計画の完遂のために、百五十億円が予算が組まれました。

□ご消息披露

記念法座日程決まる

また、こうしたご勝縁を迎えるにあたり、ご門主様より、法要お

待ち受けのご消息が発表されました。浄土真宗門徒として自覚を深め、宗門挙げての総合計画達成をめざしていきたいものであります。

神奈川組では、全二十一カ寺を五つのブロックに分けて、ご消息披露の記念法座が開催されます。

(○印は会場寺院)

- 四月二日(土) ○善龍寺・長延寺・善教寺・清来寺・教覚寺
- 四月五日(火) ○宝円寺・円光寺・光徳寺・正楽寺
- 五月六日(金) ○最乗寺・長徳寺・寿福寺・西勝寺・東善寺
- 五月九日(月) ○長念寺・最願寺・高元寺・常念寺・光輪寺
- 五月十六日(月) ○宣正寺・善然寺・宝光寺

□ひろめたる寺地に

咲かそう希有の花

この六十六年の法要の標語には、全国から寄せられた数多くの応募の中から、当神奈川組の宝光寺衆徒北門英夫師の「ひろめたる寺地に咲かそう希有の花」が特選で採用されました。

『組報かながわ』の発刊に当って

組長 雲居 隆昌

愈々、組報が発刊されます。大変うれしいことです。このことは神青会が発足して以来の懸案でしたが、一昨年宗門でも基幹運動の発足に伴い、教化面の活動が活発になり、今までの門信徒会運動と同朋運動が一本化され、現場を預る我々にとっては大変にやりやすくなったと思われれます。

さて組報がいよいよスタート台に立ちました。これからです。組内の横の連絡を密にする意味からも、是非永続性を持たせて行くよう、組内を挙げて努力して参りましょう。

あたかも六十三年度の基幹運動の重点項目に、寺院機能の振興を計る(組の活性化を含む)という項があります。幸いにも当組は神青会を中心として組の活動が始っており、そこに組報の発刊ということで、組の横の連絡を密にいたしまして、組の活性化を計って行きたいと思っております。

*神青会=神奈川組青年僧侶会

神奈川組を挙げて 基幹運動を展開

現在、教団では、信心は個人の内面の問題として現実社会から自らを閉ざしてしまっている現状を反省し、僧侶・門徒がともに手をたづさえて開かれた宗門を目指す運動を展開しています。組としても、僧侶・門徒の相互の理解を深め、信心の運動へ展開していくことを目標に活動をしています。本年度は新たに「連研」も開始されます。

□連続研修会

本年度より組主催の「連続研修会」を実施します。この「連研」は、神奈川組寺院の門信徒を対象に、門徒推進員、つまりお寺の教化活動の中心となる人材を養成すべく開催されるものです。

教化活動というと、僧侶だけの役目のように思われ、門徒は受け身の立場になりがちですが、やは

り、念仏者としての本来あるべき姿は、僧侶・門徒の立場を超えて、全員が聞法の座につき、全員が伝道に参加すべきものであります。「連研」は六月から隔月で、全十二回開催します。お問い合わせは、所属寺院まで。

□組主催の各種研修会

門徒総代研修会・仏仕研修会が六月二十九日(水)に最乗寺におい

て開かれます。

また、神奈川組には仏教婦人会活動を行なっている寺院が多くあります。今年には組連盟の結成に意欲を燃やし、九月五日に高元寺で組仏婦連盟結成大会・研修会の開催が予定されています。

そのほか、寺族婦人研修会、僧侶研修会なども基幹運動の一環として開催が予定されています。

- ◎ 手づくりの同参旅行のお手伝いをする心のアドバイザー
- ◎ 細やかな親切。ご門徒の方の旅行もお待ち申し上げます。

担当(石井) ビーエス観光 0462 (33) 0887

仏の子供を育てよう



第十七回

お寺の林間学校

ご門徒の子弟と楽しい活動や規律ある生活を共にする「お寺の林間学校」。今年七月に山梨県富士吉田市で開催されます。

この研修会は、毎年、神奈川県静岡県、山梨県の本願寺派寺院の協力により、み仏の教えを聞き、そして自然の中で、心豊かな人間を育てる目的で行われるもので、参加者も年々増えてきました。

七月二十六日から二十八日、二泊三日。富士吉田市の福源寺にて。対象は小学三年生から中学三年生。参加希望者は所属寺院までお申し出下さい。

62年度

組の動きを ふりかえる

◆組会・ご消息披露

四月三日(会場長延寺)。来る昭和六十六年に厳修される顕如宗主四百回忌・本願寺寺基京都移転四百周年記念法要のご消息披露が、僧侶門徒代表を対象に行われた。

◆門徒総代及び仏仕研修会

六月十三日(長念寺)。講師に南組光教寺住職の藤沢由徳師を迎え、「今日の寺院と宗教事情」と題して開催された。

◆寺族婦人連絡協議会

七月六日(長延寺)、六十三年二月二十四日(高元寺)。寺院の存在は坊守(お寺の奥さん)の力に負うところ大である。住職よりも!

◆南ブロックお寺の林間学校

七月二十八日(三十日)(長延寺及び清来寺)。小三から中三の子供達百二十三名、それにスタッフ四十九名を加えた大所帯。楽しい追跡ハイキングやキャンプファイヤー、小人数に分かれて大無量寿経の「三つの約束」について学習が持たれるなど有意義であった。主催運営の担当となったわが神奈川組の若手メンバーは、特注のTシャツまで揃えて奮闘。子供達は大喜び、次回山梨での再会を約束した。

◆往生

八月三十日、宣正寺副住職・坊守早島ため子師逝去、八十七歳。

◆仏婦研修会

九月八日、(最願寺)。講師 千葉組真栄教会主管 馬場昭道師。テーマ「聴くこころ」。

◆新任職 がんばります

十月十八日、好天のもと長延寺遷山二十周年・住職継職法要が厳修された。長延寺では、神奈川区から現在の緑区三保町に移転して二十年を迎えるにあたり、第十五世雲居隆昌師から第十六世隆栄師へと住職継職がおこなわれた。ファイトあふれる若き新任職への期待は大きい。前任となった隆昌

師、しかしまだ組長の要職にあるため、肩の荷はおろせない。

◆僧侶研修会

十二月十六日(宝円寺)。講師 教学本部伝道院部長 藤田徹文師。テーマ「聞法とは・伝道とは」。

◆神青会研修会

六十三年二月一日(最願寺)。「お寺のありかた」をテーマにディスカッション。一般人は仏教をどう受け止めているのか、み教えはどう伝えたらいいのか、現代寺院はいかにあるべきか。青年僧侶にとって課題は多い。

◆普請

高元寺本堂新築工事完成。
清来寺本堂改修工事完成。
光徳寺庫裏改修工事始まる。



み教えに聞く

拜まれている私



早島 鏡 正

「なもあみだぶつ」と口に称えて、みほとけに合掌している私たちの生活を、念仏生活と呼んでもよいでありましょう。けれども、念仏を称えることとそれ以外のことが別々であってはなりません。蓮如上人が「弥陀をたのめば南無阿弥陀仏の主になるなり」とおっしゃって下さるように、阿弥陀如来さまの呼声中に耳をかたむけ、願いの心にならなうて、信心よるこぶ身となつたところを指して、私は南無阿弥陀の所有主となつたといふのです。このことは、私の一挙手一投足、生活のすべてが南無阿弥陀仏の中で営まれているということでもあります。

私をとりまくすべてのもの、いいかえれば私を助けるまわりのものはみな、阿弥陀如来さまの働きに外なりません。でも、そんなことは少しも気がつかない私です。あの道端に立って手を合せているお地藏さんは、拜もうとしない私たちをいつも拜んでくれているのですね。

福井県の精神科医で信仰の厚い米沢英雄さんは、「なもあみだぶつとは、自分以外のものを拜んでいくことである」と表現しています。大変、わかり易いことばであります。

さあ、どうでしょうか。お内仏の如来さまには合掌できるけれども、あなたのお母さんに、あなたの奥さんに、あなたのお嫁さんに、手を合わせて拜めますか。

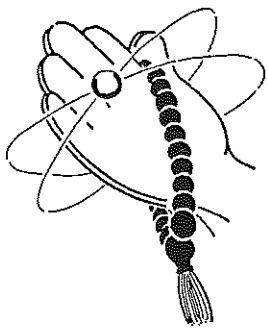
兵庫教育大講師の東井義雄先生が熊本の八代市に講演にいかれ、土地の名士の方と一泊した折、その方から「家に帰ったら、奥さんの足の裏を自分であげて下さい。ただし、足許に坐って、合掌してからもんであげて下さい」といわれました。夜中に帰宅した東井先生が、いぶかる奥さんの腹ばいさせ、足許に坐ってその足の裏に手を

合わせました。「あっ」と驚きました。熊の足の裏のようだったのです。結婚して三十八年、「女房と本当に出合った」といえます。

これまで自分は何を見てきたのか。東井先生にとって、見なければならぬものが、何であったのか、はじめてわかったのです。光に遇って、暗闇の中にいたことに気がつかれたのであります。

さいわいにして、私たちは生命おわって「真実」の世界に生まれ、みほとけとつながっている生活ここに恵まれました。「おかげさま」と手を合やす私のお念仏生活が始まったのであります。

(宣正寺住職、東京大学名誉教授、文博)



おかげさまで、全国50店達成。 まごころのご奉仕でお仏壇売上高日本一!

上大岡店

横浜市港南区日野5-1-25
☎ 045-844-5740

川崎店

川崎市川崎区東田町2-1
☎ 044-222-7577

営業時間 午前10時～午後7時 日曜・祭日も営業いたしております

わたしたちのお寺です



- 円光寺 〒210 川崎市川崎区台町4-21
石川 康承 ☎ 044-266-2677
- 宝円寺 〒210 川崎市川崎区境町5-10
飯田 琢亮 ☎ 044-222-3941
- 光徳寺 〒210 川崎市川崎区京町1-14-3
林 信順 ☎ 044-333-3997
- 正楽寺 〒210 川崎市幸区南幸町2-49
佐々木泰博 ☎ 044-522-1961
- 高元寺 〒211 川崎市中原区宮内715
宮本 義孝 ☎ 044-777-6544
- 長念寺 〒214 川崎市多摩区登戸1416
小林 泰善 ☎ 044-911-2549
- 常念寺 〒215 川崎市麻生区栗木203
古市 溪峰 ☎ 044-988-0205
- 善龍寺 〒221 横浜市神奈川区斎藤分町33
齋藤 幸紹 ☎ 045-491-9431
- 東善寺 〒223 横浜市港北区中川町1440
長谷尾芳雄 ☎ 045-911-3509
- 寿福寺 〒223 横浜市港北区茅ヶ崎町1026
多田 辰向 ☎ 045-942-3765
- 善教寺 〒223 横浜市港北区新羽町2396
平等 通昭 ☎ 045-541-7683
- 教覚寺 〒223 横浜市港北区新羽町2395
平等 真証 ☎ 045-531-2348
- 光輪寺 〒223 横浜市港北区下田町3-2-9
村石 恵照 ☎ 044-61-2661

- 最乗寺 〒223 横浜市港北区勝田町1277
日野 教昭 ☎ 045-941-3541
- 長徳寺 〒223 横浜市港北区牛久保町1122
平塚 大乘 ☎ 045-911-7351
- 長延寺 〒226 横浜市緑区三保町2440
雲居 隆栄 ☎ 045-932-3348
- 西勝寺 〒227 横浜市緑区新石川1-10-8
藤下フサ子 ☎ 045-911-0156
- 最願寺 〒230 横浜市鶴見区矢向4-19-18
藤江 昭道 ☎ 045-571-4694
- 宝光寺 〒231 横浜市中区桜木町3-5
藤田 恭順 ☎ 045-201-3509
- 宣正寺 〒232 横浜市南区中里3-20-18
早島 鏡正 ☎ 045-731-2679
- 善然寺 〒232 横浜市南区大岡2-26-17
永野 弥然 ☎ 045-741-2351
- 清来寺 〒241 横浜市旭区今宿町1895
曾我 求真 ☎ 045-951-0012

本願寺築地別院都市開教布教所

- 横浜布教所 〒240 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19
開田 蓮成 ☎ 045-341-7455
- 三ツ境布教所 〒246 横浜市瀬谷区阿久和町3913
原田 晃英 ☎ 045-364-2266
- 横浜緑布教所 〒226 横浜市緑区中山町796-25
小泉 敬信 ☎ 045-934-8648

「神奈川組」とは・・・

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

祝創刊!

組報

かながわ

浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組

組長 雲居 隆 昌

副組長 永野 弥 然

副組長 藤江 昭 道

教区会議員 飯田 琢 亮

基幹運動推進委員 同

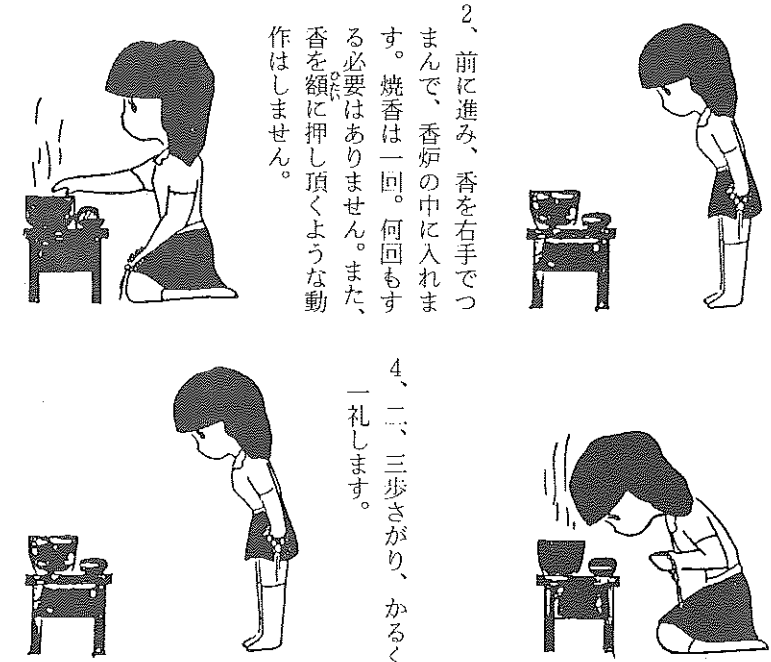
ご存知ですか?

お焼香のしかた

仏事のこころえ

古代からインドでは、目上の人に会うときなどには、香を体に塗ったり衣服につけて臭気を除き、清浄にすることが礼儀とされていきました。これが仏教にもとり入れられ、私たちが仏様に對して感謝と尊敬の念で礼拝するとき、その作法として香が用いられているのです。

お焼香のしかたは、宗派によってちがいはありますが、浄土真宗本願寺派の作法では次の通り行います。



- 1、まず、焼香卓の二、三步手前で、御本尊に向ってかゝるく一礼します。
- 2、前に進み、香を右手でつまんで、香炉の中に入れてください。焼香は一回。何回もする必要はありません。また、香を額に押し頂くような動作はしません。
- 3、合掌し、静かに念仏を称え、礼拝します。
- 4、二、三步さがり、かゝるく一礼します。

正しいお仏壇の荘厳からお勤めの作法までを完全指導

監修 浄土真宗本願寺派東京教区青年僧侶協議会

- ◎ 仏壇のお荘嚴の仕方からお勤めのお勤めの作法などを分かりやすくご指導します。
- ◎ 初心者の方の立場にたち、画面のお経の文字がお経の声に合わせて色変わりますので、お経が唱えやすくなりました。
- ◎ 経文とその意識が入った解説書が付いています。

ビデオ 日常勤行シリーズ

その教えとお勤めの作法

3月5日新発売
カラー49分
¥6,000

内容のお問い合わせは
03(980)3499
簡井企画事務所まで

●小社へ直接ご注文の場合は、ご希望の商品名を(かVHSかを)はつきりお書きのうえ下記宛に現金書留にてお申し込み下さい。確認後、商品をお送りします。(郵送料は小社で負担します)

〒110 東京都台東区台東4-27-5 秀和御徒町ビル
東芝EMI(株)マーケティングセンター ☎03(837)0634

制作・発売 TOSHIBA EMI



寺院の境内や建物のことを「伽藍」といいます。この言葉は、もともと寺院の敷地を意味する「サンガーラマ」というサンスクリ

身近にある仏教のことば

がらんどう

ット語（古代のインド語）に由来しています。これが漢字に写されて「僧伽藍」あるいは「僧伽藍摩」となり、さらに省略して「伽藍」

と言われているわけなのです。

仏教がインドから中国、日本と伝えられるうちに、敷地のみならず寺院の諸建造物までも総称して「伽藍」と言うようになりました。そして、伽藍全体の中でも中心的な建物を特に「伽藍堂」と呼ぶようになったといわれます。

今では、誰もいなければ何も置いてない広い部屋のことを「がらんどう」と言うし、「がらんとしている」と表現したりもします。

本来、お寺の本堂とは、そこで仏法に耳を傾けていく中に、一人ひとりが自己をふりかえり、御同朋、御同行として互いに手を取り合って真実の人生を求めていく場所です。すなわち、多くの人のよりどころとなるべき聞法の道場であらなければなりません。

私たちのお寺の本堂を「がらんどう」にしてしまってもったいない話です。いつも「満堂」でありたいものです。

編集後記

●神奈川組寺院ご門徒のための広報誌、「組報かながわ」創刊号をお届けします。

●ちなみに、神奈川組は「かながわそ」と読みます。組報は「そほう」、組長は「そちよう」です。

●核家族化して、仏事について見聞きする機会がなくなってきたためか、真宗門徒でありながら、いろいろな俗信や迷信にたより、真実の教えとはほど遠い生活を送っている人が多いのは、否めない現実です。

●親鸞聖人の開かれた浄土真宗は阿弥阿仏の本願を信じ念仏を申す身となることで、いかなる迷信にも惑わされることなく、またいかなる障害をも恐れることなく、人生を力強く歩ませて頂く教えです。

●周囲のことばかりに気をとられ、つい自分を見失いがちな私達だけに、お寺で法座のある時には、進んで参り、仏法を聴聞し、自分を見つめ直したいものです。

●皆様の質問などにも紙面でお答えしたいと思えます。ご意見ご希望等を事務局までお寄せください。



浄土真宗本願寺派 (西本願寺)

組報かながわ No. 1

- 発行日 昭和63年3月31日
 - 編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会
- 〒226 横浜市緑区三保町2440長延寺内